

# オーストラリアの高齢女性のライフヒストリー ——メルボルンの事例——

岡山大学 野邊 政雄

## 1 目的

この報告の目的は、1926年から1940年生まれの中産階級の女性がどのような人生を送ってきたかを明らかにすることである。

## 2 方法

そこで、2005年と2006年にメルボルンでその出生コホートの女性10人にライフヒストリーと日常生活に関する聞き取り調査を実施した。そのデータを分析するとともに、国勢調査のデータを検討することによって、そうした女性がどのような人生をおくったかを解明する。

## 3 結果

その出生コホートの女性が結婚し、家庭を形成したのは、第二次世界大戦直後から1960年代である。第二次世界大戦直後から1973年までは、ロング・ブームと呼ばれる好景気の時代であった。その時代、夫が就労するだけで、自宅を購入でき、それなりの家庭生活をおくることができた。そして、1950年代、夫は就労し、妻は専業主婦といった夫婦の性別役割分業は当然のことと考えられていた。1960年頃から、既婚女性の社会進出が徐々に始まった。

その出生コホートの女性は次のように特徴づけることができる。①早婚であった。1926年生まれの女性が結婚する年齢となったのは、第二次世界大戦直後である。1939年から1974年まで女性の平均初婚年齢は低下し、1974年には20.9歳となった。②ほとんどの女性が結婚した。そのコホートの女性は生涯未婚率がきわめて低く、4～5%であった（結婚ブーム）。③多くの子供を出産した。そのコホートの女性は主に第二次世界大戦直後から1960年代に出産をした。1926年生まれの女性が出産する年齢となったのは、第二次世界大戦直後頃からである。そのころから1961年までは、合計特殊出生率が上昇してゆき、1961年には3.6となった。その後、合計特殊出生率は低下していったけれど、1970年でも2.86であった。また、そのコホートの女性は有配偶女性の平均出生児数が2.9から3.1であった（出産ブーム）。さらに、子供をまったく出産しない女性の割合も8～11%と低かった。

その出生コホートの女性は、多くの子供を育てながら就労を始めた。聞き取り調査によれば、その課題をこなすために、多くの女性は両親の家の近くに居住し、とくに母親の支援を受けていた。

## 4 結論

以上から、その出生コホートの女性は、多くの子供を育てつつ、就労をしたが、両親との社会関係を強化し、それを利用して、その課題を解決したという仮説を提起できる。